# 長野原町やんば天明泥流ミュージアム　年報

第１号

令和３年度事業報告

２０２２

やんば天明泥流ミュージアム

Yamba Tenmei Mudflow Museum

## 序

やんば天明泥流ミュージアムは令和３年４月３日、八ッ場ダムによってつくられた「八ッ場あがつま湖」を見わたす長野原町大字林にオープンした。

本館は八ッ場ダム建設に伴い 26 年にわたり行われた発掘調査の成果をもとに、天明３（1783）年の浅間山大噴火によって発生した「天明泥流」、及び縄文時代～平安時代の八ッ場の歴史を展示する博物館である。また、水没地区から長野原町立第一小学校旧校舎の一部が移築され、学校の教材や地域の生業、上毛かるたについて展示している。

本年報は開館１年目の令和３年４月から令和４年３月までの本館の活動や実績についてまとめたものである。本館はダム関連事業で設置されたため開館期限が定められた中で、準備を行ってきた。このため開館後に整備せざるを得なかったものもあった。まだまだ、博物館に求められる様々な活動が十分行えたとは言えない面もあり、それらについては今後も継続して改善するとともに、新たな活動にも取り組んでいきたいと考えている。

令和４年３月

館長　古澤　勝幸

# 目　　次

## Ⅰ. 事業


1. 展示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 調査・研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3. 普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
4. 資料の収集・保存・活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
5. 広報活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
6. サポーターの活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12


## Ⅱ. 管理・運営


1. 組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
2. 入館状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
3. 収入状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
4. ミュージアムショップの運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
5. 寄付・寄贈・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
6. 施設管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16


## Ⅲ. 研究ノート


・古澤勝幸 「やんば天明泥流ミュージアム設置の経過とその役割」・・・・・・・・・・・・・・ 18

# Ⅰ. 事業

## 1. 展示

### （1）常設展示

当館の常設展示は、ア. 天明泥流体感シアター、イ. 天明泥流展示室、ウ. テーマ展示室、の３室とエ. 長野原町立第一小学校旧校舎で構成されている。この内、エは水没地区から一部が移築された長野原町立第一小学校旧校舎を利用している。各室の概要・構成は以下の通りである。

ア．天明泥流体感シアター－封印された八ッ場のくらし

天明泥流に襲われる前の農民の暮らし、浅間山噴火の状況、天明泥流の発生と泥流が村を襲う様子、発掘調査の状況を幅７m、高さ４mの大スクリーンで、映像と音響を駆使して体感する。

イ. 天明泥流展示室－ 1783 年８月５日のモノ語り－

〔ガイダンス〕

天明３年と現代の八ッ場の地理と歴史。発掘調査の概要を紹介。

〔よみがえる人々のくらし〕

たべる、つくる、ともす、なおす、いろどる・いのる、のコーナーを設定し、実物の出土資料を展示し、泥流被災前の八ッ場の人々の暮らしを紹介、幕府や藩からの厳しい制約や重い年貢に苦しめられたと思われている暗い江戸時代の農山村のイメージをくつがえす。

〔うばわれた日常〕

天明泥流堆積地層のハギトリ、天明浅間噴火経過、迫りくる泥流、逃げ惑う人々、一命をとりとめる、泥流の威力のコーナーを設定し、噴火の経過、天明泥流のすさまじさ、スピード感、破壊力の理解を促す。

〔災害の記憶〕

先人たちが残した災害の記憶、記録が伝える被害と復興、被害の全貌、今も語り継がれる災害の記憶、自然とともに生きる、のコーナーを設け、天明浅間山噴火がどのように伝えられ、それによって何がわかり、私たちは今後自然とどう向き合うべきかを問いかける。

ウ. テーマ展示室

発掘調査で発見された数多くの遺跡から出土した、縄文時代草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の各時期、弥生・古墳・平安の各時代の豊富な出土遺物を、壁面・ステージ・ケース・抽出ケースを用いて展示し、八ッ場の歴史を時間軸、他地域との交流を中心に構成している。

エ. 長野原町立第一小学校旧校舎

長野原町の 1/10,000 全域航空写真を張り込んだテーブルや、上毛かるたを作った浦野匡彦、長野原町の生業、小学校の教材教具を展示。教材教具に触れたり、かるたで遊ぶコーナーなども設けている。

天明泥流展示室

テーマ展示室

## （2）企画展示

長野原町立第一小学校旧校舎で、限られたスペースではあるが２回のミニ展示を行った。

ア .「長野原町と近郊市町村の郷土かるた」

群馬県は郷土かるたが各地で作られ遊びながら郷土の歴史文化の理解を促してきた。上毛かるたを製作した浦野匡彦の母校であることにちなんで、長野原町と近郊市町村で作られた郷土かるたの展示を行い群馬のかるた文化を紹介した。

展示期間： 4 月 29 日～ 11 月 30 日

展示資料点数：10 点

イ .「長野原に伝わる小正月のツクリモノ」

かつて小正月には全国各地で各家庭において家内安全や豊蚕祈願を祈って製作されていたツクリモノ。特に「キジグルマ」は全国でも長野原町を含む吾妻地域の一部と福岡・熊本・大分でしか作られないものである。そこで、長野原のキジグルマと九州のキジグルマを中心に小正月のツクリモノを紹介した。

展示期間：12 月 2 日～令和 4 年 5 月 27 日

展示資料点数：36 点（内キジグルマ 8 点）

「長野原町と近郊市町村の郷土かるた」

「長野原に伝わる小正月のツクリモノ」

# 2. 調査・研究

令和３年度に当館が実施したり、研究機関・大学の調査研究に支援・協力した調査研究は下記のとおりである。

## （１）調査研究

天明浅間山噴火、天明泥流、八ッ場地区をはじめとする当町の歴史・文化・生業、八ッ場ダム建設にかかる調査の歴史に関することについて幅広い視点で捉え、各学芸員が調査研究を実施した。成果は、当館での展示に反映させるとともに学芸員講座において報告した。各学芸員の調査研究は下記のとおりである。

ア . 古澤勝幸（館長：学芸員）

天明浅間山噴火、天明泥流を描いた絵図を、その内容、作成地、作成者、作成の目的などの視点で調査・研究した。作成目的・作成者は　①領主の公式記録　②領主への報告、③村役人、宿場役人などの日記や記録、④知識人層による記録に分類できるが、確実に①といえるものは今のところ見つかっていないこと。長野県側では噴火の経過を描いた絵図、群馬県側では泥流被害を主題としたものが作成され、その多くが泥流のもとになった鎌原土石なだれの発生地点が中腹にあることを示していることなどをまとめた。成果は１２月４日の学芸員講座で「描かれた天明泥流①」として解説した。

イ . 富田孝彦　（学芸員）

八ッ場ダム建設に伴う発掘調査は平成６（1994）年から平成 31（2019）年までの 26 年間、調査面積約 100 万㎡、52 遺跡（長野原町分）で実施された。最終報告書の刊行が令和３（2021）年 10 月なので、実際の調査期間としては 28 年間に及んだことを示した。次に地元の町教委として本調査にどのように係わってきたのかを①経由事務、②遺跡地図の改定（平成 14・16 年度）、③調整会議（平成 17 年度から参加、毎月開催）に分けて整理した。さらに発掘調査はダム工事の進捗と一進一体でその間に起こったイベントを振り返り、全体を７期に区分した。そして時期毎の調査遺跡やその特徴を概観し、経過としては政権交代による「ダム中止宣言」と「ダム再開宣言」、体制整備と調査遺跡の確定を経て、大規模発掘調査が展開されたことを確認した。最後に本調査で唯一遺すことができた遺構として「久々戸遺跡柄鏡形敷石住居跡」を取り上げ、発見から調査までの状況や移築方法と過程を整理した。成果は１月 29 日の学芸員講座で「八ッ場ダム建設に伴う発掘調査―26 年間を振り返る」として発表する予定であったが、新型コロナ感染拡大による休館で中止となった。

ウ . 高橋人夢　（学芸員）

八ッ場ダム建設に伴う発掘調査により、天明泥流罹災遺跡が数多く発掘されたが、長野原町内ではそれ以外にも天明泥流の痕跡をうかがえる地点や史料が知られている。具体的には、小林助右衛門屋敷跡、旧新井村、常林寺などが挙げられる。令和３年度はそうした地点の現地調査や長野原町に関する史料の収集を行った。また、町内のみならず渋川市内・埼玉県内を中心に下流地域に残る供養碑・伝承碑についても現地調査を行った。成果は天明泥流展示室内の PC「供養碑探索マップ」に反映させたり、12 月 15 日に催された学芸員講座「今に残る天明泥流の痕跡」にて参加者に発表するなどして公表した。

エ . 藤野麻子（学芸員補）

天明３年から近世に至る長野原の生業のひとつである麻づくり（大麻の栽培･加工･出荷）について、聞き取りや発掘資料をもとにした調査・研究をおこない、1 月 15 日の学芸員講座で発表した。吾妻地域における麻づくりの歴史は、少なくとも 16 世紀には栽培されていたとする記録が残るが、八ッ場ダム建設に伴う発掘調査により、９～ 10 世紀の遺跡から麻の加工に使われたと考えられる道具が発見されたことから、時代が遡る可能性がある。天明泥流下の遺跡からもオガラや加工道具などの遺物が出土しており（一部は常設展示）、江戸から昭和初期にかけて当地の一大産業であったことは取引明細帳などからも明らかである。地域の高齢者への聞き取りから、長野原町内の麻の生産・出荷量は大正期にピークを迎えるが、戦後、化学繊維の普及により激減し、昭和 30 年代前半には姿を消していたことがわかった。講座ではあわせて、隣接する東吾妻町にて現在も技術継承をおこなう「岩島麻保存会」による麻づくりの工程を紹介した。本調査は、令和４年度からは同保存会の活動への参加も含めて継続予定である。

## （２）大学・調査研究機関への協力・支援

ア . 科研費「災害で埋没した建物による民家建築史の研究」

奈良文化財研究所らの研究者が、文部科学省科学研究費基盤研究（A）（研究代表：奈良文化財研究所　箱崎和久）の助成を受けて令和２年度～６年度に計画している「災害で埋没した建物による民家建築史の研究」において、当館が所蔵、管理する資料の実地調査、及び長野原町内に現存する民家調査の実施に協力した。２月 21 日には当館体験学習室を会場に、吾妻郡内文化財担当者を対象に中間報告が行われた。

イ . 國學院大學文学部考古学実習、科研費「半定住狩猟採集民の社会組織と葬制」

國學院大學文学部考古学研究室が行っている考古学実習及び大学研究者らが文部科学省科学研究費（S）・（A）（研究代表：國學院大學　谷口康浩）「半定住狩猟採集民の社会組織と葬制」の助成を受けて実施している「居家以岩陰遺跡」発掘調査において地元対策や庁内調整などの協力を行った。調査に区切りがついた段階で、当館が管理する縄文時代の出土遺物や人骨との比較研究・展示に繋げていきたいと考えている。

# 3. 普及事業

## (1) 展示解説

令和3年6月26日（土）から土・日・祝日を中心に10：30と13：30から学芸員による展示解説を行っている。常設展示室・テーマ展示室を45分から60分程度で解説している。令和3年度は計41日実施し、延べ329人が参加した。

展示解説

## (2) 行事

ア．やんば天明泥流ミュージアムオープン式典

【日程および内容】

| 日程 | 内容 | 参加者 |
|---|---|---|
| 4 月 3 日（土）<br>10:30 ～ 11:30 | 1. 開会<br>2. 主催者挨拶　長野原町長 萩原 睦男<br>3. 来賓祝辞<br>（1）群馬県県土整備部部長　清水 昭芳様<br>（2）国土交通省関東地方整備局河川部長　西澤 賢太郎 様<br>（3）浅間山ジオパーク推進協議会会長・嬬恋村長　熊川 栄 様<br>（4）群馬県議会議長　萩原 渉 様<br>（5）長野原町議会議長　浅沼 克行 様<br>4. 祝電披露<br>5. テープカット<br>6. 閉会<br>（式典終了後、来賓への展示案内） | 33 名 |

主催者挨拶

テープカット

イ . 学芸員講座

講義は下記の 4 講で開催し、各回13:30から質疑応答を含めて1時間30分程度の講義を行った。各回の概要は以下のとおり。ただし、第4回は新型コロナウイルス感染状況の悪化に伴う休館により中止となった。

| 回 | 日程 | 内容 | 講師 | 受講者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 12 月 4 日（土） | 「描かれた天明泥流①」 | 古澤 勝幸<br>（当館館長） | 18 名 |
| 2 | 12 月 18 日（土） | 「今に残る天明泥流の痕跡」 | 高橋 人夢<br>（当館学芸員） | 19 名 |
| 3 | 1 月 15 日（土） | 「長野原町と麻づくり―町の暮らしを支えた “ 幻の産業 ”―」 | 藤野 麻子<br>（当館学芸員補） | 29 名 |
| 4 | 1 月 29 日（土） | 「八ッ場ダム建設に伴う発掘調査―26 年間を振り返る―」 | 富田 孝彦<br>（当館学芸員） | 中止 |

学芸員講座第 1 回

学芸員講座第 2 回

学芸員講座第 3 回

ウ．その他の行事

博物館活動を広く周知するため、当館主催以外でも積極的な普及活動を実施している。

①ぐんま県民カレッジ「オープンキャンパス」大学等出前講座

浅間山北麓ジオパーク現地見学講座

日程：10 月 1 日（金）

主催：群馬県教育委員会吾妻教育事務所

会場：当館体験学習室

講師：古澤　勝幸（当館館長）

内容：「浅間山の天明噴火と吾妻」

受講者：12 名

ぐんま県民カレッジ

## (3) 体験学習

次年度から学校団体等に体験学習を実施できるよう、職員による検討と実験を行った。

## (4) 学習支援事業

クイズ形式の見学シートとして、小学校低学年向けの「ミュージアムクイズ【初級編】」、小学校高学年～中学生向けの「ミュージアムクイズ【中級編】」をエントランスに配置し、提供している。参加者には東宮遺跡で採集した軽石に解説を付けた「天明 3 年の軽石」を記念品として配布している。

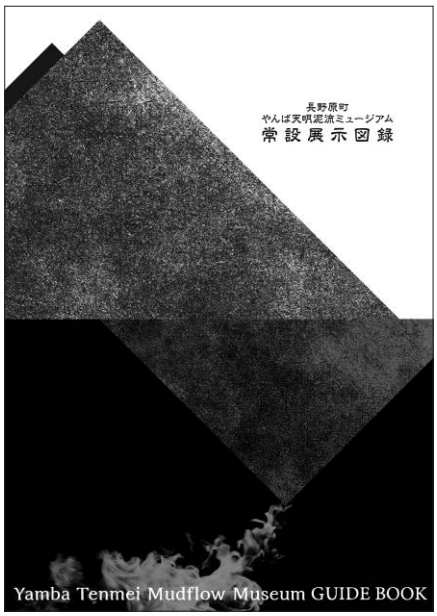
## (5) 印刷物の刊行

『長野原町　やんば天明泥流ミュージアム　常設展示図録』令和 3 年 10 月 29 日刊行

11 月 6 日（土）からミュージアムショップで販売を行っている。

## (6) 無料開放

令和 3 年 10 月 28 日（木）の群馬県民の日に合わせてミュージアムを無料開放した。当日の来館者は計 147 名であった。




『長野原町　やんば天明泥流ミュージアム　常設展示図録』

# 4. 資料の収集・保存・活用

## (1) 資料の特別閲覧

研究者等が申請により資料の閲覧や写真撮影等を行った。令和３年度は計２件であった。

| No. | 資料名 | 閲覧月日 | 申請者 | 目　的 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | キジグルマ | 12 月 13 日 | 個人 | 調査研究 |
| 2 | 柳沢城跡出土遺物 | ２月１日 | 個人 | 調査研究 |

## (2) 資料の貸出・借用

ア . 資料貸出

令和３年度の資料貸出については、計１件であった。なお、貸出資料の所蔵者は群馬県で、当館は収蔵場所の責任者として資料貸出立会の代行業務を行った。

| No. | 資料名 | 借用期間 | 申請者 | 目的 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 中棚Ⅱ遺跡剥ぎ取り資料 | １月６日～３月 19 日 | 埼玉県立川の博物館 | 冬期企画展「埼玉県の災害伝承碑」において展示するため |

イ . 写真貸出

令和３年度の写真貸出については、計１件であった。

| No. | 資料名 | 申請月日 | 申請者 | 目的 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 小林家屋敷跡　発掘調査写真　１点 | ３月７日 | 新泉社 | 『災害と復興　天明三年浅間山大噴火』に解説図版として掲載するため |

ウ . 借用

八ッ場ダム建設に伴う発掘調査資料一式は、令和２年度より所蔵者の群馬県から借用しており、令和４年度以降に、長野原町に対して無償譲渡される予定である。

## (3) 資料の寄贈・寄託

ア . 史資料

令和３年度の新規の寄贈・寄託については、寄贈が計３件、新規の寄託が１件であった。当館で寄託を受けている資料は令和３年度末現在で計 14 点である。

令和３年度寄贈資料一覧

計３件　　（敬称略）

| No. | 区分 | 資料名 | 申請月日 | 寄贈者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 寄贈 | 『浅間山焼け出し大変記』　１点 | ４月１日 | 山口　盛雄 |
| 2 | 寄贈 | 旧第一小学校関連 CD･DVD　計３枚 | ９月 10 日 | 樋田　耕弥 |
| 3 | 寄贈 | 第一小学校卒業生名簿（写）（昭和 17 年度～ 27 年度分） | ９月 13 日 | 樋田　耕弥 |

『浅間山焼け出し大変記』

令和３年度寄託資料一覧

計 14 件　　（敬称略）

| No. | 寄託者 | 資料名 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 関　運蔵 | 浅間大変記 | 更新 |
| 2 | 富澤　久幸 | 浅間山津波吾妻郡押出図 | 更新 |
| 3 | 富澤　久幸 | 浅間山津波実記　上 | 更新 |
| 4 | 市村　雄平 | 浅間大変記 | 更新 |
| 5 | 市村　雄平 | 浅間山噴火の災害 | 更新 |
| 6 | 市村　雄平 | 浅間山展覧会出品資料の目録 | 更新 |
| 7 | 美斉津　洋夫 | 天明三年大噴火を伝えた瓦版 | 更新 |
| 8 | 美斉津　洋夫 | 浅間山焼昇記　1847 年小山氏写本 | 更新 |
| 9 | 美斉津　洋夫 | 上州吾妻郡岩下村浅間山焼灰砂降畑方不作御届帳 | 更新 |
| 10 | 美斉津　洋夫 | 天明三年浅間山大変図 | 更新 |
| 11 | 美斉津　洋夫 | 天明三年七月六日、七日当日震動浅間山焼出し上州吾妻郡に噴出し人馬押流す所の図 | 更新 |
| 12 | 高橋　邦光 | 常林寺の梵鐘 | 更新 |
| 13 | 川原湯区長 | 川原湯区区有文書 | 更新 |
| 14 | 与喜屋区長 | 与喜屋区区有文書 No.1 ～ 254　計 257 点 | 新規 |

イ . 図書　（敬称略　順不同）

文化庁
独立行政法人国立文化財機構　奈良文化財研究所
（公財）日本武道館
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
（公財）千葉県教育振興財団
（公財）印旛郡市文化財センター
（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
（公財）福島県文化振興財団
（公財）いわき市教育文化事業団
（公財）富山県文化振興財団
（一財）群馬地域文化振興会
（一財）地域創造
（株）パスコ
（有）歴史考房まほら
國學院大學考古学研究室
立正大学博物館

新潟大学人文学部考古学研究室
群馬県地域創生部文化財保護課
群馬県地域創生部文化振興課
群馬県立歴史博物館
群馬県立世界遺産センター
高崎市教育委員会
沼田市教育委員会
前橋市教育委員会
館林市教育委員会
みどり市教育委員会
みどり市大間々博物館（コノドント館）
岩宿博物館
太田市教育委員会
藤岡市教育委員会
渋川市教育委員会
桐生市教育委員会
安中市教育委員会
富岡市教育委員会
伊勢崎市教育委員会
中之条町教育委員会
玉村町教育委員会
下仁田町教育委員会
嬬恋村教育委員会
熊谷市教育委員会
深谷市教育委員会
北本市教育委員会
富士見市教育委員会
寄居町教育委員会
宇都宮市教育委員会
市川市教育委員会
柏市教育委員会
船橋市教育委員会
石岡市教育委員会
上高津貝塚ふるさと歴史の広場
下妻市教育委員会
葛飾区教育委員会
葛飾区郷土と天文の博物館
茅野市教育委員会
上田市教育委員会
岡谷市教育委員会
南アルプス市教育委員会
諏訪市教育委員会
長野市立博物館
佐久市教育委員会
南アルプス市教育委員会
坂城町教育委員会
新潟県立歴史博物館
佐渡市教育委員会
柏崎市教育委員会
いわき市教育委員会
野々市市教育委員会
沼津市教育委員会
刈谷市歴史博物館
下呂市教育委員会
福山市
群馬歴史資料継承ネットワーク
「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会
宮崎敏夫
高瀬　正

資料閲覧コーナー

# 5. 広報活動

ミュージアム開館にあたり、開館の周知と利用促進のため、パンフレット・ポスター・チラシを作成した。パンフレットは入館者の理解を深めるために配布するほか、関係機関・近隣観光施設等に配布し広報媒体としても活用している。さらに、令和３年度学芸員講座の開催のためチラシを作成し、町民ならびに町内各施設、近隣博物館・教育施設への広報として配布した。

新聞・テレビ等のメディアには４～５月を中心に新規オープン施設として取材記事が取り上げられたほか、学芸員講座等のイベントや図録刊行に際しては行事案内やトピックスとして、また 12 月以降は上毛新聞内オピニオン 21 欄にて館長が担当するコラムが連載されている。群馬テレビ制作によるミュージアム紹介動画は、テレビ放映の後も YouTube にて動画の閲覧が可能となり、同じくミュージアム協力のもと群馬県公式チャンネル「tsulunos」により制作された紹介動画等とともに閲覧数が増加している。

「広報ながのはら」は全戸配布で、住民へのミュージアムに対する周知と理解が深まるよう、事業案内や情報提供を行っている。また、長野原町のまちづくり組織「つなぐカンパニーながのはら」発行の情報誌「ら♪ら♪ら通信」、「イベントカレンダー」へも情報提供を行い、町内観光施設としての連携にも積極的に参画している。

インターネットを利用した情報公開については、令和２年８月には先行して公式フェイスブックページを、開館直前の令和３年３月には公式ホームページを立ち上げ、以降常に新しい情報提供の更新に努めている。

## (1) 町広報

『広報ながのはら』

| No. | 内容 |
|---|---|
| ８月号 | ミュージアム展示解説案内、町民は無料で見学できることのアナウンス |
| 11 月号 | 学芸員講座案内 |
| １月号 | 懸垂幕寄贈報告、ミュージアムサポーター募集案内（毎戸配布印刷物） |

## (2) 放映・放送

| No. | 放映・放送日 | メディア名 | 番組名 |
|---|---|---|---|
| 1 | ４月　３日 | NHK 前橋 | ほっとぐんま 630 ほか |
| 2 | ４月　３日 | 群馬テレビ | ニュース eye |
| 3 | ４月　９日 | NHK 前橋 | ほっとぐんま 630 |
| 4 | ４月 23 日 | エフエム群馬 | フライデーフルスロットル |

## (3)PR 動画

| No. | 名称 | 主催・制作 | 期間 |
|---|---|---|---|
| 1 | ぐんまの魅力を再発見<br>/ やんば天明泥流ミュージアム | 群馬テレビ・つなぐカンパニーながのはら | 令和３年３月 25 日にテレビ放送後、YouTube にて公開 |
| 2 | グンマー×ヤンバー（第 10 回）<br>/ やんば天明泥流ミュージアム | 群馬県公式チャンネル | 令和３年３月 31 日より YouTube にて公開 |
| 3 | 浅間山北麓ジオパーク | 浅間山北麓ジオパーク | １月 23 日より YouTube にて公開 |

### (4) インターネットを利用した情報の提供

インターネットを利用した情報公開については、令和２年８月には先行して公式フェイスブックページを、開館直前の令和３年３月には公式ホームページを立ち上げ、以降常に情報更新を行っている。

施設紹介･利用案内のほか、トピックスとして定期的に講座等のイベント告知や開催報告を公開し、また団体見学の申込書等もダウンロード可能となっている。

| 月 | ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 | 10月 | 11月 | 12月 | １月 | ２月 | ３月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 閲覧数 | 2,516 | 2,083 | 1,467 | 1,306 | 1,703 | 1,332 | 2,364 | 1,769 | 1,008 | 871 | 687 | 891 |

### (5) キャンペーン等協力

| No. | 名称 | 主催団体 | 期間 |
|---|---|---|---|
| 1 | ハンドブック　群馬の博物館・美術館 | 群馬県博物館連絡協議会 | 通年 |
| 2 | ぐんま県民カレッジ | 群馬県生涯学習センター | 通年 |

## 6. サポーターの活動

やんば天明泥流ミュージアム・ミュージアムサポーターとは、館内外の案内や解説、体験学習や各種事業のサポートを通して、ミュージアムと来館者の橋渡し役となるボランティアガイドのことである。

サポーター制度の導入は開館時からの目標のひとつであったが、令和３年８月よりボランティアガイド養成及び組織化に関する協議を進め、令和４年１月から養成講座参加者の募集を開始した。養成講座は計３回行われ、３回の講座すべてを修了した19名が、サポーターとして活動することを希望し、令和４年度からのサポーターとして認定された。

### (1) サポーター養成講座

下記全３回の養成講座を行い、講座終了後は受講者19名がサポーターとして認定された。サポーターは令和４年度４月より活動を開始する。

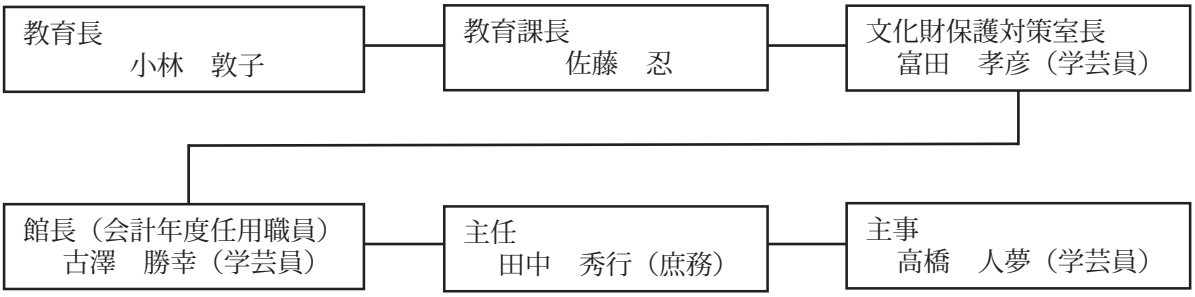
サポーター養成講座第２回

| No. | 開催日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 1 | ２月19日（土） | サポーターの活動について、館内案内、展示解説 | 各学芸員 |
| 2 | ２月26日（土） | 伝わる声の話し方 | コミュニケーションコーチ　安海玲子氏 |
| 3 | ３月　５日（土） | ミュージアム解説実習 | 各学芸員 |

# Ⅱ. 管理・運営

## 1. 組織

当館は長野原町直営のミュージアムである。教育委員会教育課文化財保護対策室内に位置付けられている。




会計年度任用職員4名　坂井 春栄・向出 治恵・藤野 麻子(学芸員補)・萩原 一美

## 2. 入館状況

### (1) 令和３年度入館者数

入館者数 12,931 名　開館日数 289 日（うち土日祝 109 日）

| 区分 | | | 令和３年度 | 比率 |
|---|---|---|---|---|
| 有料観覧者 | 個人 | 一　　般 | 8,084 人 | 62.5% |
| | | 小・中学生 | 606 人 | 4.7% |
| | 団体 | 一　　般 | 722 人 | 5.6% |
| | | 小・中学生 | 1,146 人 | 8.9% |
| | 割引 | 一　　般 | 36 人 | 0.3% |
| | | 小・中学生 | 13 人 | 0.1% |
| | | 身障者（付添を含む） | 362 人 | 2.8% |
| | 小　　計 | | 10,969 人 | 84.8% |
| 無料観覧者 | 減免申請等 | | 358 人 | 2.8% |
| | 町民 | | 753 人 | 5.8% |
| | 招待券 | | 186 人 | 1.4% |
| | 未就学児 | | 218 人 | 1.7% |
| | 無料開放（県民の日） | | 147 人 | 1.1% |
| | その他（取材など） | | 300 人 | 2.3% |
| | 小　　計 | | 1,962 人 | 15.2% |
| 合　　計 | | | 12,931 人 | 100% |

## （2）新型コロナウイルス感染拡大防止対策

ア . 臨時休館（令和４年１月 28 日から２月 13 日まで 17 日間）
イ . 入館時の手指消毒、マスク着用、検温、健康状態申告書の記入
ウ . 館内の換気・消毒
エ . 受付にパーテーションを設置
オ . 団体見学のグループ分け
カ . 天明泥流体感シアターの人数制限

## （3）団体利用状況（学校・施設等）

令和３年度の団体組数は計 47 組、計 1,950 名であった。そのうち学校関係が 29 組（大学２・高校４・中学校６・小学校 17）を数え、全体の 61.7％を占める。

令和３年度学校団体一覧
学校合計 29 組（一般 392 名、小中学生 1,201 名）　（敬称略）

| No. | 日付 | 団体名 | 一般 | 小中学生 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ６月 13 日 | 埼玉県立春日部高校 | 18 | 18 | |
| 2 | ７月 16 日 | 長野原町立中央小学校６年生 | 3 | 15 | |
| 3 | ７月 30 日 | 常総学院高校１年生 | 38 | 0 | |
| 4 | 10 月 11 日 | 沼田市立沼田小学校 | 6 | 54 | |
| 5 | 10 月 11 日 | 渋川市立小野上小学校５～６年生 | 4 | 12 | |
| 6 | 10 月 12 日 | 藤岡市立北中学校３年生 | 3 | 32 | |
| 7 | 10 月 14 日 | 沼田市立薄根小学校６年生 | 6 | 55 | |
| 8 | 10 月 15 日 | 長野原町立北軽井沢小学校３年生 | 2 | 10 | |
| 9 | 10 月 15 日 | 甘楽町立福島小学校６年生 | 4 | 26 | |
| 10 | 10 月 19 日 | 高崎市立上郊小学校６年生 | 4 | 52 | |
| 11 | 10 月 21 日 | 長野原町立北軽井沢小学校４年生 | 3 | 12 | |
| 12 | 10 月 24 日 | 高崎市立高松中学校 | 10 | 153 | |
| 13 | 10 月 25 日 | 群馬県立聾学校小中学部 | 5 | 10 | |
| 14 | 10 月 29 日 | 群馬県立長野原高校 | 113 | 0 | ウォーキング |
| 15 | 11 月　１日 | 太田市立綿打中学校 | 7 | 80 | |
| 16 | 11 月　２日 | 前橋市立若宮小学校６年生 | 4 | 27 | |
| 17 | 11 月　８日 | 甘楽町小幡小学校 | 4 | 28 | |
| 18 | 11 月 12 日 | 玉村町立中央小学校６年生 | 7 | 75 | |
| 19 | 11 月 12 日 | 伊勢崎市立あずま小学校５年生 | 5 | 100 | |
| 20 | 11 月 15 日 | 沼田市立東小学校 | 6 | 38 | |
| 21 | 11 月 15 日 | 前橋市立桃井小学校 | 7 | 57 | |
| 22 | 11 月 25 日 | 軽井沢風越学園 | 1 | 16 | |
| 23 | 11 月 26 日 | 高崎市立矢中中学校 | 9 | 109 | |
| 24 | 11 月 30 日 | 高崎市立佐野中学校 | 2 | 31 | |
| 25 | 12 月　２日 | 前橋市立元総社南小学校６年生 | 5 | 37 | |
| 26 | 12 月　４日 | 前橋工科大学　社会環境工学科 | 54 | 0 | |
| 27 | 12 月　５日 | 群馬大学　教育学部社会専攻　地理研究室 | 17 | 0 | |
| 28 | ３月　３日 | さいたま市立土屋中学校３年生 | 11 | 154 | |
| 29 | ３月 11 日 | 群馬県立尾瀬高校２年生 | 34 | 0 | |

令和３年度一般団体一覧
一般合計 18 組（一般 357 名）　（敬称略）

| No. | 日付 | 団体名 | 一般 | 小中学生 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 30 | ４月　８日 | 嬬恋郷土資料館　友の会 | 19 | | |
| 31 | ４月 11 日 | ホテル　ヴィレッジ | 15 | | 社員研修 |
| 32 | ６月 15 日 | ホテル　グリーンプラザ軽井沢 | 20 | | 社員研修 |
| 33 | ７月 31 日 | 金島公民館 | 22 | | |
| 34 | 10 月 22 日 | 群馬県母子保護連盟　吾妻支部 | 20 | | |
| 35 | 11 月　２日 | 浅間山ジオパーク　駒沢大学 | 15 | | |
| 36 | 11 月　２日 | 群馬県議会議員 | 18 | | 視察 |
| 37 | 11 月　６日 | (一社）嬬恋村観光協会 | 21 | | ジオモニターツアー |
| 38 | 11 月　９日 | 群馬県退職高等学校長会<br>文化遺産等を楽しむ会 | 16 | | |
| 39 | 11 月　９日 | エクシブ軽井沢 | 15 | | |
| 40 | 11 月　９日 | 綿打地区生涯学習 | 38 | | |
| 41 | 11 月　９日 | 群馬県商工会女性部連合会　吾妻支部 | 26 | | |
| 42 | 11 月 13 日 | (一社）嬬恋村観光協会 | 21 | | ジオモニターツアー |
| 43 | 11 月 18 日 | 館林市大島公民館　大島高齢者教室 | 17 | | |
| 44 | 11 月 19 日 | 本庄商工会議所　女性会 | 22 | | |
| 45 | 11 月 26 日 | 金島公民館 | 21 | | |
| 46 | 11 月 30 日 | 吾妻郡社会教育担当者会　郡公民館連絡協議会 | 16 | | |
| 47 | 12 月 10 日 | 藤岡商工会議所 | 15 | | |

## 3. 収入状況

当館における諸収入は、観覧料とミュージアムショップにおける図録などの書籍等販売収入、自動販売機の敷地貸付料がある。ミュージアムショップは開館後は準備を進めたため、計上したのはミュージアムショップがオープンして販売準備が整った 11 月～３月、敷地貸付料は９月～３月の実績である。

| 種　　別 | 令和３年度 | 比　　率 |
|---|---|---|
| 観　覧　料 | 5,941,100 円 | 97.2% |
| 書籍等販売収入 | 160,550 円 | 2.6% |
| 敷地貸付料 | 13,436 円 | 0.2% |
| 総　　計 | 6,115,086 円 | 100% |

## 4. ミュージアムショップの運営

当館の展示内容に関連した知識・教養を高める機能を深めたり、収蔵資料の普及啓発を図るため、11 月６日（土）からミュージアムショップの運営を開始した。

## 5. 寄付・寄贈

### （１）寄付

長野原町が受け入れる「ふるさと寄付金」の謝礼品として本ミュージアムの招待券やミュージアムグッズの登録を１月 26 日（水）より開始した。

### （２）寄贈

11 月 26 日（金）群馬銀行が発行する「ぐんぎん SDGs 私募債」を活用し、（株）歴史の杜より、懸垂幕１枚が寄贈された。懸垂幕は旧第一小学校東側面に設置され、本ミュージアムの広告塔として

入館者を迎えている。

「ぐんぎん SDGs 私募債」贈呈式

懸垂幕

# 6. 施設管理

## （1）建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理

・空調設備点検：7月
・空調フィルター交換作業：2月
・電気保安月次点検：4月、6月、8月、10月、12月、2月
・電気保安年次点検・停電検査：6月
・エレベーター保守点検：7月
・展示設備1年点検：12月
・展示設備（PC 機器）点検：5月
・天明泥流体感シアター演出照明点検：11月、2月
・ミュージアム屋外・館内全体清掃：11月
　その他、館内清掃業務を外部委託している。

## （2）施設・設備等の工事修繕状況

・第一小学校旧校舎　手摺りとスロープの取付：11月
・第一小学校旧校舎　屋外壁面懸垂幕取付：12月
・券売機設定画面変更：2月
・券売機新500円玉改鋳：3月

## （3）防火対策

・消防設備、不活性化ガス消火設備保守点検：2月

## （4）防犯対策

・警備業務を外部委託している。

# Ⅲ．研究ノート

## やんば天明泥流ミュージアム設置の経過とその役割

古　澤　勝　幸

### はじめに

「やんば天明泥流ミュージアム」（以下、本館）は「八ッ場あがつま湖」を臨む長野原町林地区に令和３（2021）年４月３日に開館した。

当館は、八ッ場ダム建設に伴い 26 年にわたって実施された約 100 万㎥に及ぶ埋蔵文化財発掘調査の出土資料及びデータを保存管理するとともに、天明３（1783）年の浅間山噴火により発生した天明泥流災害を中心に、縄文時代からの八ッ場地区の歴史を展示する博物館である。

当館が保存管理する発掘調査による出土遺物は、八ッ場地区の近世の農村や農民の生活を伝え、それを奪った天明泥流、さらには縄文時代から中世までを伝える膨大なものである。また、これらの発掘調査には多くの地元の人たちが作業員として携わったことも他の災害展示を行っている博物館には見られないことである。併設する長野原町立第一小学校旧校舎の移築には卒業生が実行委員会をつくり保存移築に取り組んだ。まさに、地域の人々が歩んだ歴史を伝える博物館である。

そこで、本稿では、本館設置の経過及び災害をテーマにしているものの、それに留まらない本館の果たすべき役割を考えてみたいと思う。

### １．ダム建設と博物館建設の経緯

昭和 27（1952）年に計画された八ッ場ダムは、その後様々な曲面を乗り越え令和２（2020）年に完成した。この間昭和 55（1980）年に群馬県が提示した『八ッ場ダム建設に伴う地域住民の生活再建案』では「水没地域の動植物及び文化財等を調査し、記録保存の措置を行う」としており、さらに平成２（1990）年に国と県が策定した『地域居住計画』では「史跡・文化財・民俗に関する資料や民具等を収集し、これらを展示する水没文化財センターを整備する」ことが示された。同年 12 月には、長野原町林地区から同センターの林地区建設に関する強い要望があり、国と県は「林地区に整備する」ことを回答した。

長野原町ではダム建設に伴い古文書、民俗文化財、石造物などの調査を実施してきた。また、埋蔵文化財発掘調査は平成６（1994）年にスタートした。

平成 22（2010）年の政権交代により、ダム建設は一旦中止され、再開後も制度改正により、「ダム周辺整備事業」での博物館建設は対象外となった。その後、国・県・町・下流都県で設置主体、建設費用、完成後の管理運営にかかる協議が行われ、平成 28（2016）年に「利根川・荒川水源地域対策基金事業」の一環として町営の施設として建設することが決まった。なお、発掘調査で出土した遺物収納箱約 17,000 箱相当も、すべて町が県から無償譲渡を受け、本館で収蔵、展示、調査研究に活かすことになった。

建設・展示には群馬県が全面的にバックアップすることになり、町と県が平成 29（2017）年９月に『長野原町水没文化財保存センター基本構想書』をとりまとめた。また、建設地は、道の駅「八ッ場ふるさと館」の西約 600 m、延床面積は約 1500㎡で平成 32 年度中のオープンを目指すこととなった。11 月には町が「（仮称）町営水没文化財保存センター整備に係るワーキンググループ」（以下、ＷＧ）を設置し、群馬県県土整備部特定ダム対策課と町ダム対策課が事務局を務め、６名を委員として施設や展示について議論を進めた。なお、筆者はワーキンググループのリーダーとして会議のとりまとめ役を務めてきた。

### ２．開館に至る検討と準備の経緯

本館は八ッ場ダム建設に伴う生活再建事業の一環として設置されたため、通常の博物館建設に比べると、極めて短時間で用地の決定から設計、建設、展示、資料輸送を実施してきた。ＷＧでの検討の推移、ＷＧ作業部会の

設置、資料輸送等、平成 29 年基本構想策定以降の検討準備の経過は以下の通りである。

このほか、長野原町では担当者、担当課による 100 回以上に及ぶ打合せ、グラフィックや解説、模型製作においては令和２年度に入ると担当と展示業者である丹青社との日々の協議、建設工事においても月２～３回程度佐田建設、丹青社との打合せを実施してきた。

表　WG の構成メンバー

| 役職 | 氏名 | WG 発足時の所属・役職 |
|---|---|---|
| リーダー | 古澤勝幸 | 群馬県教育委員会文化財保護課・課長 |
| グループ員 | 黒澤照弘 | 群馬県教育委員会文化財保護課・指導主事 |
| グループ員 | 簗瀬大輔 | 群馬県立歴史博物館・補佐（学芸係長） |
| グループ員 | 藤巻幸男 | 群馬県埋蔵文化財調査事業団・調査資料部長 |
| オブザーバー | 佐藤修二郎 | 長野原町ダム担当副町長 |
| オブザーバー | 富田孝彦 | 長野原町教育委員会文化財係・補佐 |

**平成 29 年９月　（仮称）長野原町営水没文化財保存センター基本構想策定**

**平成 29 年 11 月 14 日　第１回ＷＧ会議（長野原町公民館）**

**参加者：WG メンバー、事務局**

(1) ワーキンググループ員の紹介

(2) ワーキンググループ設立趣意書（案）及び規約（案）について

(3) 基本構想について

・基本構想書で示された建設候補地の内、林地区が最適であること、その場合の土地の造成方法、建物と駐車場の配置などの説明と意見交換

(4) 今後の進め方について

・ダム関連事業終了の平成 33 年３月までに完成させなければならないとして、それまでのスケジュールが示された

**平成 30 年１月 17 日　第２回ＷＧ会議（群馬県庁）**

**参加者：WG メンバー、関係者（県建築課、県八ッ場ダム水源地域対策事務所〔以下、対策事務所〕、株式会社福島設計事務所〔以下、福島設計〕、株式会社丹青社〔以下、丹青社〕）、事務局**

(1) 建築設計について

・事前に提示された４つの建築プランの中で、２階を展示室・管理エリア、１階を収蔵庫とする案を元に設計を練り上げる

・１階を収蔵庫とする場合、擁壁との間にドライエリアを設ける

・体験学習室、シアターは必要だが面積は今後検討

・非耐火建造物である旧第一小学校とは軒で６m、壁で 10 m以上とる

(2) 展示設計について

・２案提案された中で、導入（通史）→天明泥流前（縄文→江戸時代（天明泥流前）→天明泥流シアター）→天明泥流後→企画展示＋旧第一小学校をベースに検討を進める

・天明泥流に絞った展示を目指す。普遍性のあるものを中心に据える

・シアターは学習と臨場感の両面を持つ演出とする

**平成 30 年１月 29 日　文化庁協議　（文化庁）**

**文化庁：美術学芸課　宇田川滋正文化財調査官**

**県：文化財保護課、特定ダム対策課、県建築課、対策事務所**

**町：富田**

(1) 博物館を設置することになった経緯と事業概要、スケジュールを説明

・建物の立地、既存施設（旧第一小学校）、２階を展示室、１階を収蔵庫とする案を提示

(2) 立地・平面案・展示案について説明後事前に送付しておいた質疑事項について指導助言

・町の意向を最優先すること、人員配置、企画展開催の有無、資料の貸借の有無等を考慮し施設のスペックやメンテナンスを検討するよう助言を受ける

**平成 30 年３月７日　第３回ＷＧ会議（群馬県庁）**

**参加者：ＷＧメンバー、関係者（県建築課、対策事務所、福島設計、丹青社）、事務局**

(1) 建築設計について

・２階エントランス・展示室、１階収蔵庫の設計プランの動線について意見交換。テーマ展示と企画展示を兼用スペースとする

・旧第一小学校は造成工事のため一旦解体移築、再築の際向きを変え、アプローチを広く、離隔距離を確保できるようにする

・収蔵庫の金庫扉、耐火扉、各エリアの使用部材、設備の仕様確認

(2) 展示設計について
・江戸時代の人々の暮らしをメインテーマとし、展示構成をＡ通史展示（長野原の通史）、Ｂ映像展示（天明泥流体感シアター）、Ｃ基本展示（天明泥流罹災遺跡「くらし絵巻」）、Ｄ・Ｅテーマ展示（江戸時代以外の時代／テーマの展示）、旧第一小学校（校舎の沿革・民俗資料）とする
・シアターのスクリーンについて曲面、４面の提案、日常の生活、８月５日、発掘の状況とのオーバーラップの構成が提案された
※ＷＧで意見交換後、町が曲面スクリーン採用を決定。

**平成 30 年 5 月 11 日　独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所との協議（東京文化財研究所）**
**東京文化財研究所：保存科学研究センター保存環境研究室吉田直人室長**
**県：文化財保護課、特定ダム対策課、建築課**
**町：富田**
・保存環境・展示環境からみた平面プランの具体的な指示
・公立館に求められる授乳室等必要な機能の説明
・温湿度管理の目安やフィルター（ケミカルフィルターは不要）

**平成 30 年 6 月 14 日　第４回ＷＧ会議　（群馬県庁）**
**参加者：ＷＧメンバー、関係者（県特定ダム対策課、対策事務所、県建築課、丹青社）、事務局**
(1) 独立行政法人東京文化財研究所との協議結果の報告
(2) 展示設計
①展示全体構成、②くらし絵巻のシーン設定と構成、③その他コーナーの手法と構成、④映像シアターの構成シナリオ、⑤解説計画

**平成 30 年 8 月 16 日　第５回ＷＧ会議（群馬県庁）**
**参加者：ＷＧメンバー、関係者（県特定ダム対策課、対策事務所、丹青社）、事務局**
(1) 展示全体構成の確認
・展示ストーリーの確認
・平面プラン・ゾーニングの確認
(2) 各コーナーの構成と手法
①ガイダンス、②くらし絵巻、③天明３年の大噴火
④ふるさとを語り継ぐ、⑤テーマ展示

**平成 30 年 9 月 18 日　第６回ＷＧ会議　（群馬県庁）**
**参加者：ＷＧメンバー、関係者（県特定ダム対策課、対策事務所、丹青社）、事務局**
(1) 平面プランと展示構成
(2) ケース形状
(3) 解説計画
(4) ハンズオン模型及び複製品を製作する資料

**平成 30 年 11 月 22 日　第７回ＷＧ会議　（群馬県庁）**
**参加者：ＷＧメンバー、関係者（県特定ダム対策課、対策事務所、丹青社）、事務局**
(1) 展示実施設計の検討
・展示資料に合わせた各ケースのサイズ、ＬＥＤ照明の調整
・グラフィックパネルの内容検討
・屋敷再現模型で製作する屋敷の選定
(2) 今後の予定
・ＷＧは完工まで継続。建築、地質分野の監修者、アドバイザーを依頼する
・解説パネル原稿の作成分担は町が検討

**平成 31 年 4 月 5 日　安全祈願祭（起工式）（ミュージアム建設地）**

**平成 31 年 4 月 24 日　ＷＧに作業部会設置**
・ＷＧメンバーの内、解説原稿執筆を担当したり、模型・グラフィックの指導助言をしたりする者で組織。以後令和２年９月の間 23 回の会議・打合せを実施

**令和元年 7 月 5 日　第８回ＷＧ会議（群馬県庁昭和庁舎）**
**参加者：ＷＧメンバー、関係者（県特定ダム対策課、対策事務所、丹青社）、事務局**
(1) 諸室・コーナー・テーマ名称検討
(2) 災害を語り継ぐコーナーの展示内容検討
(3) 模型造形検討・ハンズオンレプリカ制作リスト検討
(4) 導入展示映像，展示室情報端末のコンテンツ検討
(5) 展示工事にかかる作業分担
(6) 展示資料リストの確認・検討

**令和元年 9 月 25 日　独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所との協議**
**参加者：東京文化財研究所保存科学研究センター吉田直人室長、間渕研究員**
**県：文化財保護課、特定ダム対策課、建築課**
**町：佐藤ダム担当副町長、富田**
**関係者：福島設計、丹青社**
・経費を抑えつつ保存管理を適切に実施する方法につい

て協議
・収蔵庫や展示室において、カビが発生しないよう湿度管理を行うこと、特に金属器などを展示するケース内の湿度管理を徹底することについて指導を受ける

**令和元年 11 月 7 日　第 9 回ＷＧ会議（群馬県庁）**
**参加者:ＷＧメンバー、関係者（対策事務所、丹青社）**
(1) レプリカ、１号屋敷再現模型、村再現模型
(2) グラフィック
・コーナー名称と解説情報の整理
・ガイダンスパネル項目と構成の決定
・奪われた日常項目と構成の決定
・災害の記憶項目と構成の決定
(3) 展示ケース
・ケース高の決定
(4) 映像コンテンツ
・福島民家園、ドローン撮影の報告
(5) 管理運営体制の計画
・環境調査・維持管理費・運営体制

**令和２年１月 施設名称「長野原町やんば天明泥流ミュージアム」に決定**

**令和２年４月１日**
・学芸員（正規職員）１名､会計年度任用職員２名（内、学芸員１名）採用
・教育委員会職員に兼務辞令（実務は令和2年 12 月から）
・職員の体制が文化財保護対策室長（学芸員）以下５名

開館告知ポスター

となる

**令和２年８月 18 日　第 10 回ＷＧ会議（やんば天明泥流ミュージアム）**
**参加者：ＷＧメンバー、関係者（県特定ダム対策課、県建築課、対策事務所、福島設計、丹青社、佐田建設）、事務局**
(1) 展示工事・施設確認
・施設の確認及び展示工事の進捗状況の確認
(2) グラフィックの最新一括の確認
(3) 映像・情報探索端末の確認
・シアター構成台本の確認・試写
・ガイダンス展示の映像確認
・情報検索端末の構成資料確認
(4) 模型関係
・レプリカ・ハギトリの現物確認
(5) 展示造作・展示パーツ
・展示ケース図面確認

**令和２年９月 23 日　資料輸送に係る打合せ（群馬県埋蔵文化財調査センター）**
**参加者：長野原町教育委員会、群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県埋蔵文化財調査事業団、日本通運、丹青社**

**令和２年 10 月５日～ 11 月６日（延べ 24 日）**
**・群馬県埋蔵文化財調査事業団から資料輸送（第１期）**

**令和３年 11 月９日～ 11 月 20 日（延べ 10 日）資料展示**

**令和３年２月 15 日～２月 18 日（延べ４日）**
**・群馬県埋蔵文化財調査事業団から資料輸送（第２期）**

**令和３年２月 17 日　開館日告知**
**令和３年２月 19 日　旧第一小学校資料展示**
**令和３年２月 24 日～ 25 日　町職員内覧会**
**令和３年３月１日～９日　施設燻蒸**
**令和３年３月 22 日　報道機関向け内覧会**
**令和３年３月 25 日　八ッ場地区住民内覧会**
**令和３年３月 26 日～ 27 日　町民内覧会**
**令和３年４月１日　古澤勝幸が館長に就任、会計年度任用職員１名採用（受付業務担当）**
**令和３年４月３日　オープン**

@Forward Stroke.inc

設置が計画されていたミュージアムショップは開館後準備をすすめ 11 月オープンとなった。また、ボランティア組織は、令和３年度内に養成講座を実施した（別項参照）。

## ３．当館の展示概要

基本構想書に掲げられた「ふるさとの歴史、自然、文化を未来につなぐ」というコンセプトに基づき、館の特徴を明確にするためには天明泥流を中心として展示すべきとの意見がＷＧの大勢を占め、博物館は以下の構成で展示を展開することになった。

Ⅰ．天明泥流体感シアター

発掘の成果と歴史資料に基づき、実写とＣＧを組み合わせ、被災前の農民の暮らしと、浅間噴火と天明泥流の状況を大画面で再現する。

Ⅱ．ガイダンス展示

展示の舞台となった「やんば」の地理と歴史的な背景、発掘調査地点を示す。

Ⅲ．よみがえる日常

被災建造物から出土した農民の生活用品を「たべる」「ともす」「なおす」「いろどる・いのる」「つくる」のテーマのもとに展示する。そこからは、様々な生業を営み塗り物や陶磁器を用い、人が集う時に使われた組み物の食器を持ち、茶の湯を嗜み、女性はくしで髪を整え化粧や鉄漿をし、祭りや遊びに彩られた農民の生活がよみがえってくる。

Ⅳ．奪われた日常

泥流の断面剥ぎ取りや､泥流で犠牲になったネコの骨、泥流到達直前まで村役人クラスの家に集まっていた人々が、命からがら逃げたことを物語る、途中まで燃えた線香が残る香炉や、火をつけないままの刻みタバコが残されたキセル、慌てて裸足で逃げた人が残した草履や下駄などを展示する。また、大切な法具を持ち出すこともできないまま泥流から逃げきった生々しい記録が残る、不動院跡から出土した密教法具を展示している。泥流の威力破壊力を示す資料としては被災した農家の建築部材や破壊された硬い鉄製品、およそ 20km も吾妻川を流され明治 43（1910）年に発見された常林寺の梵鐘を展示している。

Ⅴ．伝えられた災害

天明浅間山噴火と天明泥流は関東地方中心に被害や影響が大きく、このため多くの人々が記録に残した。伝えられた記録と、これらの記録から明らかになった被害の全貌を紹介する。また、この災害から人々がどのように復興を果たしたか､今でも行われている被災者を供養し、被害を伝える活動を紹介し、自然災害を克服し自然とともに暮らしてきた私たちの歩みを紹介する。

Ⅵ．テーマ展示

ここはテーマに基づいて展示を展開するとともに、企画展示室としても利用する予定の展示室である。開館時は数多くの縄文時代の遺跡が発見され、豊富な出土資料やデータが得られたことから、縄文時代の他地域との交流を中心に縄文から平安時代のやんばの歴史を紹介する。

Ⅶ．長野原町立第一小学校旧校舎

水没地区から移築された長野原町立第一小学校旧校舎の一部を活用し、長野原町出身の浦野匡彦が作った「上毛かるた」や小学校の教材、民俗資料などを展示している。

## ４．本館の役割

冒頭でも述べたように、当館は 26 年という長期にわたり多くの人たちの努力によって成し遂げられた発掘調査、そこで得られた貴重な出土資料やデータを保存管理

する博物館である。これらの貴重な資料を確実に次世代に伝えていくことが本館の最大の使命である。そして、これら資料の研究や調査の成果をいかして以下の活動を継続することが本館の役割だと考えている。

(1) まず第一は、天明三年浅間山噴火災害を「天明泥流」を中心に確実に伝えていくことである。泥流発生のメカニズム、災害の状況、その時人々が取った行動、救済や復興について伝えることによって天明泥流という災害があったという歴史を残し、災害への知識、関心を高め、災害に備える意識の醸成を図ることである。

(2) 第二は天明泥流被災前の八ッ場地域の姿を伝えることである。当館が管理している資料は、天明３年８月５日確実に八ッ場地区に存在し、使用されていた家屋や生活・生産道具等である。これらは重い年貢に苦しみ江戸や地方の町場と比べて贅沢品もなく、遊びやゆとりもなかったと思われがちな近世の山間部のイメージを覆し、農山村の歴史・生活文化・生業の真の姿の理解に繋がるものである。

(3) 第三は発掘調査によって得られた膨大な縄文時代の出土遺物やデータから、縄文時代から近世までの八ッ場の歴史を伝えることである。縄文時代～平安時代の展示はテーマ展示室の限られた面積であるが、発掘調査で得られた豊富な資料を様々な方法で発信し、約１万年前から八ッ場地域に暮らした人たちの生活文化や、関東や信越、北陸、東北地方にまで及ぶ広い範囲の人たちとの交流を解明し伝える役割を担っている。

(4) 第四は八ッ場地区が上毛かるた発祥の地であることや、八ッ場の人々の思いや誇りを伝えていくことである。この地区の人たちは天明泥流で被災した土地の上に新しい村を再建してきた。その土地が今度はダム建設によって水没するために移転を余儀なくされたのである。私たちは災害や歴史を伝えるだけでなく、ここで暮らした人々の二度にわたる苦難、それを乗り越え、新しいふるさとを築こうとする人たちの思い、やむを得ずふるさとを離れなければならなかった人たちの思い、誇りを伝えていかなければならない。

## おわりに

東日本大震災発生時「想定外」という言葉をよく耳にした。しかし、三陸をはじめ東北地方の太平洋側は過去に何度も津波被害を受け、津波の研究者や歴史災害研究者はおこるべき次の地震、津波災害への警鐘と備えを訴え続けてきた。津波の大災害が「想定外」になってしまったのは、それらの警鐘を住民、行政、企業が真摯に受け止めたり、十分な訓練や備えを行えなかったりしたことが大きな原因だったとは思うが、警鐘を鳴らす側の発信力、発信方法も十分だったのか振り返ることも必要だと考えている。

災害は毎年、日本でも、世界でも必ず発生する。本館に限らず、災害をテーマとする博物館は、自然災害の驚異とともに、自然の恵みについて伝える事を通して、自然と人との関わり方を知り、正しく恐れ、正しく備え、次の想定外を生み出さないようにする使命を担っている。

（ふるさわ　かつゆき　長野原町やんば天明泥流ミュージアム　館長）

**基本情報**

| | |
|---|---|
| **開館時間** | ９時～ 16 時 30 分（最終入館 16 時 ) |
| **休館日** | 水曜日（水曜日が祝日の場合はその翌日)、年末年始 |
| **入館料** | 一般 600 円（500 円）小学生・中学生 400 円（300 円）<br>（ ）内は 15 名以上の団体割引料金<br>長野原町民および未就学児は無料<br>障害者手帳などをお持ちの方とその介護者（１名）は半額 |
| **交通のご案内** | 道の駅八ッ場ふるさと館から徒歩 10 分<br>JR 長野原草津口駅から車で 10 分<br>関越自動車道渋川伊香保 IC から車で約 60 分<br>上信越自動車道碓氷軽井沢 IC から車で約 75 分 |

**長野原町やんば天明泥流ミュージアム　年報**

第１号

令和３年度事業報告

令和４年 10 月 5 日　印刷

令和４年 10 月 14 日　発行

発行　　長野原町やんば天明泥流ミュージアム

〒 377-1309　群馬県吾妻郡長野原町大字林 1464-3

TEL　0279(82)5150　　FAX　0279(82)5152

https://www.town.naganohara.gunma.jp/www/yamba-museum/

印刷　　朝日印刷工業株式会社